

2014.10.8
宇都宮

地元産石で優勝メダル

ジャパンカップ初の制作

【宇都宮】18、19日に市内で開催されるジャパンカップサイクルードレースとクリテリウムで、優勝者に初めて、地元産の石で制作したメダルが贈られることになった。メダルはトロフィーとともに17日まで、江野町のジャパンカップミュージアムで展示されている。トロフィーは3年前から地元産の石製だが、優勝した外国人選手から帰国する際に重いとの声が出ていた



ジャパンカップの優勝者らに贈られる地元産の石で制作されたメダル。下は優勝トロフィー

ため、大谷石内外装材協同組合が、運びやすいメダルを制作した。

メダルはクリテリウム用

が大谷石製、ロードレース用が田下石製。ステンレスで制作した自転車をはめ込み、そのフレームの中央に金、銀、銅を張り付けた。同組合によると「大谷石や田下石は柔らかいため、3〜4mmの細い線で彫るのはか

なりの技術が必要という。

トロフィーは、クリテリウム用が二荒山神社の鳥居（大谷石製）、ロードレース用は山岳コース（大谷石製）をイメージした形となっている。昨年までは優勝者に贈呈していたが、メダルを贈呈することにより、今回は戻してもらい、来年まで保管・展示する。

ジャパンカップミュージアムの開館時間は午前11時〜午後8時（17、19日は同10時）。（田中勝）